

令和4年度上牧町総合計画等外部検証委員会（第1回）
会議録

【日 時】 令和4年10月21日（金）13：30～16：00

【出席者】 委員 9名（中山委員、鶴谷委員、木内委員、東委員、康村委員、東谷委員、岩井委員、岩脇委員、阪本委員）

担当課

（企画財政課） 4名

（秘書人事課） 3名

【欠席者】 委員 5名（山田委員、渡邊委員、迫委員、濱田委員、鐵東委員）

【傍聴人】 0名

【事務局】 5名（中川部長、中本課長、土井課長補佐、高野主事、高見主事）

1. 開会

- ・ 検証の趣旨、スケジュールの説明
- ・ 9名の委員が出席であるため、会が成立していることの説明

2. 委員紹介

- ・ 委員の紹介と委嘱状の交付
- ・ 事務局配付資料確認
- ・ 委員長あいさつ

3. 議題

（1）検証の進め方について

- ・ 事務局から検証の進め方について説明

（2）上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

○企画財政課

【24. UR 住宅の活用及び入居促進】

担当課 ： <「24. UR 住宅の活用及び入居促進」について説明>

東谷委員：UR 住宅の戸数と入居数を教えてもらいたい。

担当課 ： 令和3年末時点で1199世帯が入居している。全1580戸のなので、7～8割の入居率と考えられる。高齢者の入居が増えているため、下層階への入居が多く、上層階に空きがみられる。

東谷委員：協議を重ねているとあるが、こういった内容か。

担当課 ： ハード面については、具体的な話は出ていない。費用面のこともあり、なかなか進んでいないのが現状である。ソフト面については、生活支援アドバイザーの配置等、協議を重ねることで実を結んでいる部分もある。

東谷委員：実現できる部分を模索して要望に臨むことが大切だと思うので、さまざまな角度から要望の方向性を模索、検討していったらどうか。

担当課：実現できるような形を模索して働きかけていきたい。

副委員長：項目としては、「若者の移住定住」ということであるが、年間転入者のうち若年層の実績はあるか。

担当課：0～19歳における入居者数は、毎年減ってきている。一方で、高齢者の数については、維持しており、全体として高齢化が進んでいることがわかる。

副委員長：若者向けの対策は、どのようなことを考えているか。

担当課：こういった形で場所を活用できるのか、URも実証実験されている。時間貸しやDIY可能な住宅といった他市町村の事例もあるようだが、進んでいない。

副委員長：近隣大学の学生が入居できるような取組も考えられるのではないか。

担当課：以前、そういったことに取り組まれている埼玉県春日部団地へ出向いて、研究していたこともあるが、現状できていない。

副委員長：模索している時期ということか。

担当課：具体的な事業設計ができていないので、模索している。具体的にこういったことをやるという方向性が見えてれば、段階を踏んで計画的に進めていきたい。

岩井委員：入居転入者数のグラフに増減がみられるが、分析はされているか。

担当課：現状、分析までは至っていないため、今後検討する。

岩井委員：海外からの業務実習等で来られていたかたが、新型コロナウイルス感染症の関係で増えたり減ったりするようなことも考えられる。若者の移住定住とは目的が異なるので、しっかりと分析し、実態把握に努めてもらいたい。鶴舞団地の現地視察に行かれたとのことだが、なにか分かったことはあるか。

担当課：いきいきと健康に暮らせる住環境整備を行っていくうえで1つの参考として見に行った経緯がある。

【28. イベント等におけるふるさと回帰・移住促進PR活動の実施】

担当課：＜「28. イベント等におけるふるさと回帰・移住促進PR活動の実施」について説明＞

東谷委員：はたして今の上牧町に人口を増やす必要があるのか。6km²の町に2万人以上が住んでいる過密状態の本町にとって、これ以上の人間を流入させる面的な余地はあるのか。人口が増えるということは、歳入が増える一方で、歳出も増える。「今住んでいる住民が快適に住み続けられるまちづくり」という原点に立ち戻り、人口の流入が必要なのか検討する必要がある。

担当課：人口密度が高いという認識はもっている。総合戦略がつくられた過程として、消滅可能性都市として、人口をどこまで下げ止まれるかというねらいがあると認識している。「すむ・奈良・ほっかつ！事業」の中でも、当初は移住促進のためのPRを行ってきたが、ここ数年は地域の魅力を高めていく方向にシフトしてきた。

委員長：44頁にあるように、2060年に18,000人の人口目標を掲げている。この人数が適正というわけではないが、このまま人口減少が進めば、15,000人、16,000人となり、減りすぎることも考えられる。人口減少をどう食い止めるかという計画であることを理解していただきたい。

副委員長：広域連携については、今後どのようにしていくか予定があれば教えてもらいたい。

担当課：「すむ・奈良・ほっかつ！事業」については、4町の魅力向上ということで、令和4年

としては、河合町が行われていた古墳印帖の取組を広域展開し、関係人口の増加につなげていくということで調整を進めている。今後も地域の魅力を広域ではかり、関係人口を増やすような内容を考えていきたい。

副委員長：古墳印帖は年配のかた向けだと思うので、さまざまな層を対象に、町としてターゲットとしたい地域を考慮して、今後も進めていってほしい。

【29. 大学や企業との連携によるブランディングの推進】

担当課：＜「29. 大学や企業との連携によるブランディングの推進」について説明＞
特になし

【30. 移住支援金事業】

担当課：＜「30. 移住支援金事業」について説明＞

副委員長：県の取組に対して KPI が挙がっているが、その先の展望等は考えているのか。県の取組を掲載しているだけでは、町の KPI として不十分に感じる。

担当課：今回要件が緩和され、需要が増えてきた。しかし、これをきっかけに移住されたのではなく、たまたま「要件が合致したので申請した」というかたがほとんどであるので、そういった実態を踏まえて県と話をしたいと考えている。

副委員長：ふるさと納税の産品を作っていく中で、知名度をあげる必要が出てくる。町の魅力を発信するという部分では、アンテナショップを活用するなどして、町の名前を売っていくイメージで力を入れていくのがよいと思う。

担当課：今回、返礼品開発をする中で、町内でさまざまなものづくりが行われていることが分かってきた。ふるさと納税の雑誌に掲載したり、商工会ではアンテナショップで黒カレーの販売を行ったりと、少しずつ町の PR を行いながら、こういった制度を紹介して、移住につなげる流れにもっていききたい。

【34. 町内の優れた技術・能力を有する人材の発掘及び活用の促進】

担当課：＜「34. 町内の優れた技術・能力を有する人材の発掘及び活用の促進」について説明＞

委員長：町内の優れた人材とは、具体的には、どのような人材か。

担当課：中小企業診断士や元教員等、これまで仕事で培ってきた技術や能力を町のために生かしたいという思いをもって、定年退職後に登録されているかたが多い。

委員長：シルバー人材センターやボランティア等で活躍されているかたとの重複はないか

担当課：重複しているかたもいるかもしれないが、確認はとれていない。

人材バンクとしては、町の行う事業や審議会等に参画していただくために、趣旨にあったかたを探して、依頼をする形で進めている。シルバー人材センターについては、労働力という別の目的があると思うので、趣旨が異なっている。

委員長：活用人数について記載があるが、さらなるニーズがあるという見方でよいか。

担当課：活用件数の中身としては、まきっ子塾での学習支援アドバイザーで登録しているかたが多く含まれており、うまく活用できていない部分がある。今後については、人材バンクの活用の幅を広げていく必要があると考えている。内部向けの活用だけでなく、地域のかたとも人材について情報共有し、活用していただけるような制度になるよう

調整を進めている。

岩井委員：先日、町内の小学生にフランス出身のかたが英語で授業するといった新聞記事を見かけたが、町内在住か。そういったかたにも登録してもらえれば、よいのではないか。

担当課：町内在住ではないと思う。町内在勤のかたにも登録いただいているので、柔軟に対応していきたい。

【36.上牧町協働のまちづくり公募型補助金事業】

担当課：＜「36.上牧町協働のまちづくり公募型補助金事業」について説明＞

副委員長：交付した事業について、活動成果を報告する場はあるのか。

担当課：実績報告については、各団体より報告を受けたものを事務局でとりまとめ、委員会を開き、審査を行う場を設けている。

副委員長：具体的にどのような事業に取り組んでいるかを広報し、参加者を増やしていけるような取組をしてはどうか。少し目的は変わってしまうかもしれないが、自治会も活用できるような応募要件を広げることも検討してはどうか。

担当課：例年５件まで申請数が届かないことがあるので、公募型補助金の制度により関心をもってもらえるよう、周知方法等を含め、検証を行っていきたい。

東谷委員：決算額が63万とあるが、予算額はいくらか。

担当課：予算額は、75万円。補助金の種類が３つあるが、自由提案型の上限額15万を５件で計上していた。追加募集で、自立支援型の応募があったので、50万補正計上を行った。

東谷委員：予算計上したものは使い切って、不用額が出ていないという認識でよいか。

担当課：不用額は出ている。５件のうち１件が不採択になっており、その分が不用であった。また、各団体から実績報告で使わなかった分を返金してもらっているので、その分も出ている。

【40.ハローワーク等と連携した就職支援】

担当課：＜「40.ハローワーク等と連携した就職支援」について説明＞

委員長：マッチングイベント事業者数「1事業者」とあるが、こういった内容か。

岩脇委員：育児を機会に離れているかたが町内で働いていただけるように事業者さんと求職者さんをマッチングするイベントだと認識している。

委員長：よい内容だが、「1事業者」は少なく感じる。働きたいかたが数名おられ、企業も何社かあってということならわかる。始めたばかりなので1事業者ということであれば、今後はもう少し増やしていかれてはどうか。

担当課：返礼品開発をとおして町内事業者とのつながりができたので、今後は、そういった事業者にも声をかけていきたい。

【43.子育てママ就業支援事業】

担当課：＜「43.子育てママ就業支援事業」について説明＞

岩脇委員：ママスクエアのことか。令和３年度に45名増えたということだが、町内のかたか。

担当課：町内のかたは８名。

岩脇委員：予算をみていると0になっているが、町からの支出はないのか。

担当課：決算額は0で、令和4年度についても支出はない。

今後はよりよい環境づくりという部分で、令和5年度以降国の補助金も活用しながら進めていくことも考えている。

岩脇委員：町と1民間企業との関わりとして、なにか行っているのか。

担当課：ワクチン接種等、町で人手不足になったときにフォローいただいた。

岩脇委員：例えばワクチン会場のスタッフ等か。

担当課：コールセンターでの予約受付や窓口受付等、手伝っていただいた実績がある

岩脇委員：仕事がなければ働くこともできないと思うので、町としても優先的に依頼しているということか。

担当課：すべての事業でというわけではないが、マッチする部分があれば活用していきたいと思っている。

○秘書人事課

【35. 地域活動団体の設立及び活動支援】

担当課：＜「35. 地域活動団体の設立及び活動支援」について説明＞

副委員長：目標値が9でに対して、実績0とあるが、どのように評価すればよいか。

担当課：当初、地域の諸団体の設立数として挙げていたが、自治会の設立数へシフトしてきた。
今のところ新たな設立自治体が0ということで、0と入れている。

副委員長：自治会未整備の地域があるということか。

担当課：はい。新興住宅地において、自治会を設立する可能性が考えられる。

副委員長：新興住宅地となるとラスパのあたりになると思うが、なにか設立の足かせになっていることがあるのか。

担当課：これからますます住宅が増えていくということ。

副委員長：地域住民からの需要があるのか。

担当課：開発業者と調整をしており、要望の声が上げれば作っていけるよう進めている。片岡台1丁目のマンションについても、こちらから話をさせてもらったことがある。

副委員長：既存の自治会へ入ってもらうような考え方はないのか。長年、新しい自治体を設立するということが言われているように思うが、既存自治会へ入った方がよい部分もあるのではないか。

担当課：子ども同士の交流、防災面などを含めて、よい部分もあると思うので、マンションだけで作るのではなく、その地域の既存の自治会へ入ることも選択肢の1つとして、声掛けを行っている。

副委員長：マンションへ転入してきたかたは、自治会意識があまりないと思う。新住民と旧住民との交流なども含め、緩やかで大きな組織をめざして、連携していくのがよいと思う。
できるだけ早く自治会に入ってもらうことが大切。

委員長：マンションに管理組合はあるか。

担当課：あるが、自治会はできていない。

委員長：まちづくり協議会の設立も考えているのか。条例ができていて、今後地域で進めていくということか。

担当課：条例等はまだできていない。自治会運営についても検討の余地があるので、違う形の取組も模索しているということで記載している。

○全体を通して質疑応答

委員長：今年度から第2期総合戦略が策定されているが、国では、デジタル田園都市国家構想が進んでおり、デジタル田園都市国家構想交付金に一本化していく計画である。町としての考えはあるか。

担当課：情報は把握している。国が地方に向けてもデジタルで活性化していく方向にあると思うので、必要に応じて変えていかなければならないと考えている。

委員長：デジタル戦略を推進していくとなると、この内容であてはめていくことは難しいと思うので、今後のことも視野に入れて、少しずつ考えられてはどうか。

担当課：方向性が定まれば、また委員の皆様にご相談させていただきたい。

4. その他

- ・事務局から次回の委員会の開催日時（令和4年11月25日（金）13：30）の連絡及び次回以降月1回ぐらいのペースで開催する予定である旨の説明を行った。

5. 閉会

以上